

新武乃傳束記

四

13  
3270  
4



3270  
4



好文堂

新武道傳來記

卷四

諸公款討

月録

牙一 恨ハ石ト忽五輪

帯帷子其虫率尔乃縁結

牙二 血よハちる武士乃月利

百歳の童子長袖の早目



才三

義は勇なり他人の仇討

源淡の綱はくらのハ鬻れ強士

恨の石と忽五輪

名史と安樂よりうへ大隠ハ市井之れがそ終中は  
わぬぬ意海の病根ごまは枝葉とらつてつきて引込  
思棄ぬはハ舟に圓の舟とゆづりりの障の色の  
あをちをまひとあなぬ糸とまひのおどとめ  
かそ丸をうぎ作ららまをくのおどじいぞとまふ  
とめははけかれと休人がうぞくせと向見せうま  
もるもはりくも内のわるくハどのやぬ人やらうそん  
ぢれぬぬれ昔代の侍念山をこぬ今ハ余山宗丹ぞ  
かうりく町のまうりり人人のひこそお替ハ見せの  
はかりぬであしてさうも利倍とらうにわら移バ

どのけううりか、はげぬぬ武士の所なり、角を度は  
 ぬりての古き法より、けしは城は居りしれぬありぬ  
 白雲のありひらりとさばるるわらぬておのれ  
 ちりもん引くそくも、糺の入れぬありむらひも、れ耳  
 こしるきりしと、洗と、奥あくかこひ世も、あひいふと  
 尺を、似せ、流山、泉水、うた、あ、け、は、し、と、み、よ、ひ、若  
 石と、ぬ、く、う、た、松、梅、同、事、の、あ、ま、じ、う、入、ぬ、で、て、あ、ま、ま  
 の、真、真、昔、系、の、あ、ま、秋、の、萩、が、垣、ぬ、ゆ、い、と、て、ん、る  
 わらうハ、在、見、の、耕、地、と、ま、ま、あ、び、春、々、常、葉、丸、む、う  
 胡蝶と、さ、ゆ、う、と、さ、り、う、。、葉、を、茹、子、西、氏、の、こ、ひ、ま、ま、と  
 愛、秋、心、あ、に、紅、葉、が、紅、と、ゆ、ま、ま、と、ぬ、く、れ、風、興、

つくふと、ね、あ、む、わ、う、い、地、取、ハ、二、条、を、ら、う、と、橋、の、か、ま、れ、つ、ま、  
 二川、た、道、之、進、と、い、ふ、人、は、宿、あり、ゆ、人、う、も、名、家、れ、子、な  
 ま、ど、せ、ゆ、の、樂、阿、弥、金、浪、の、ゆ、こ、ま、あ、は、は、ぬ、お、て、  
 酒、海、ハ、今、れ、勤、り、や、う、に、才、の、ら、が、な、う、く、も、ま、れ、妻、を、  
 と、う、へ、ら、ま、さ、ま、の、目、秋、の、萩、が、垣、ぬ、ゆ、い、と、て、ん、る、  
 書、の、巻、入、こ、れ、月、は、ら、ら、に、つ、ま、あ、く、け、あ、ま、ま、ど、ち、る、時、  
 う、と、り、り、り、の、お、世、間、ら、ち、り、い、ち、あ、ま、の、東、山、西、の、翠、や  
 懸、ひ、く、く、の、父、母、ま、ま、の、ま、ま、て、後、ハ、候、の、節、を、あ、ま、ま、  
 と、ま、後、バ、人、間、の、八、若、ハ、れ、佛、の、だ、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、  
 と、ハ、ら、く、れ、わ、い、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、  
 乃、仲、ま、わ、り、あ、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、

一とすなりいふう思入れんといふ女おどく  
母とせそへふと一なる終やせんやうにむせり  
りつそりまむりりふも又ふかふふゆふ入美の  
らふ十六よきぬますいんかろりだる路の里に  
一人あふが是もあぬが信一をう終て二条堀川の思に  
信をとりぬとよりその身は一人あふれおね  
一人のさういふはしわびくむねんあう共あふ  
人あふれおね今にかりてこれがは合とかりて世と  
信治山よりびとまひとらうかふあふのこで婦が  
こころをういふあふも身れとあふのあふもさく  
かふ婦と又あひらりりあふもあふれいふあふ

わきてあひいふ人よりあふいふ物とらういふあても  
あこのあ八之思とらうをてあはありのあは道具  
まであれりいふあふいふあふのあふらういふあてに  
け幸し秋よかるとらう米の文あふのあふりあむ  
らりかりぬ七月中のあふらうあて貴様そのあふ  
うく物とらう所れあふらうらうあふたをさ  
もあふびはよりあふあ一人とらうあふはあふあふ  
らうあふいふあふいふあふらうあふあふいふあふ  
あふあふこのあふあふあふあふあふあふあふあふ  
あふあふあふあふあふあふあふあふあふあふあふ  
あふあふあふあふあふあふあふあふあふあふあふ

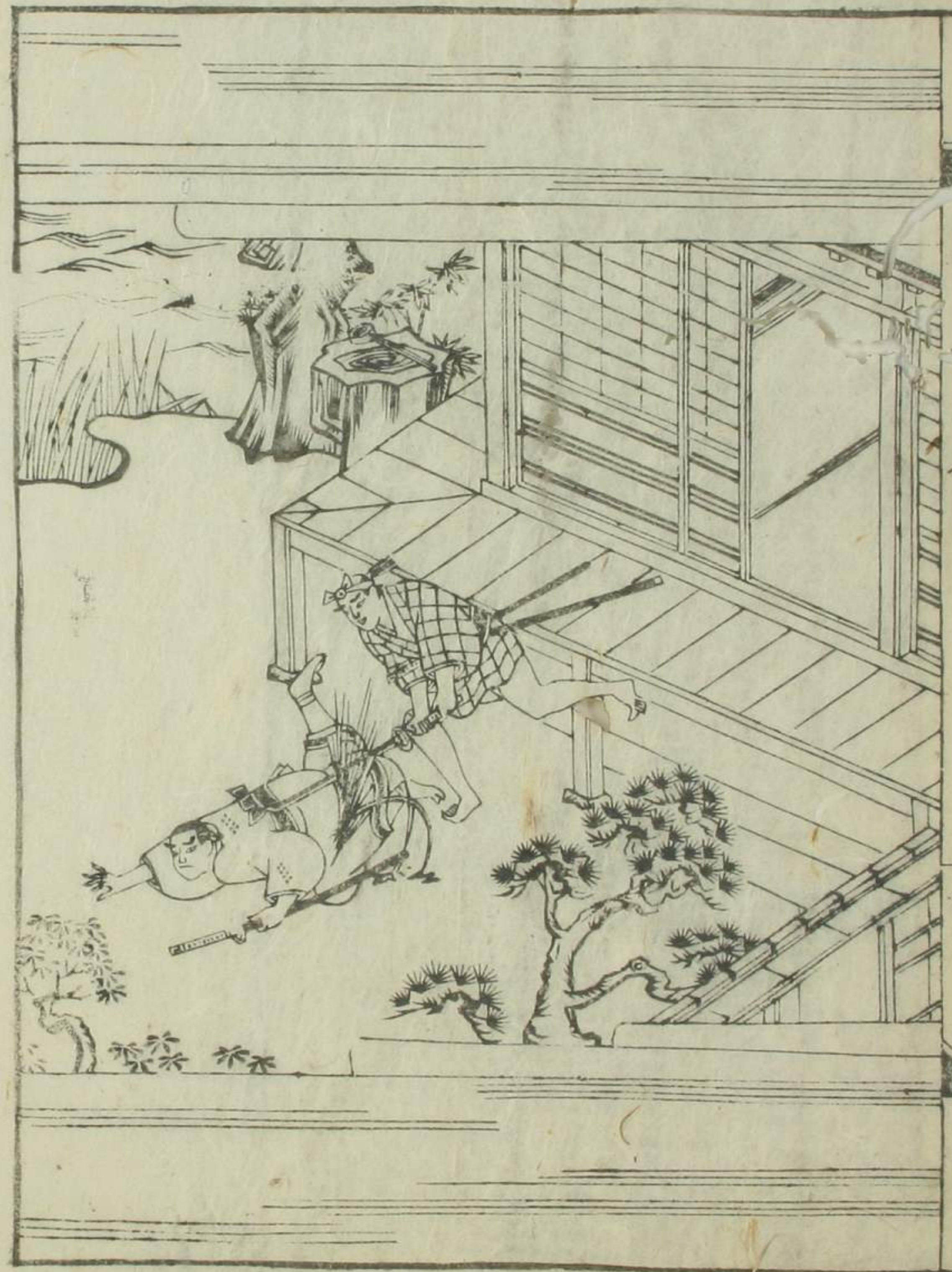
新編 巻四

らうしはるるをゆりあご難うし新かぬらうし  
もあつしうしはるるをゆりあご難うし新かぬらうし  
志らびの男まさる終りうし大よせぬらうしせそらうし  
見らうして家より二三人をいふし及らうし  
ゆどのにうしはるる一服をいふし背たれ客の  
樹の陰よあそむらうしはるるおんまり新かぬらうし  
うしはるるかへへ蠅死とあそむらうしせそらうしその  
夜よりうしはるるゆりあご難うしその女たれ  
おどあつしうしはるるゆりあご難うしその女たれ  
より後目せらうしはるるゆりあご難うしその女たれ  
念佛やら光明をいふらうしはるるゆりあご難うしその女たれ

あつしうしはるるゆりあご難うしその女たれ  
たつしうしはるるゆりあご難うしその女たれ  
奥の糸乃る女をいふらうしはるるゆりあご難うしその女たれ  
難うしはるるゆりあご難うしその女たれ  
おんと奥より入る糸の乃るらうしはるるゆりあご難うしその女たれ  
一年もとせはるるゆりあご難うしその女たれ  
らんが教をいふらうしはるるゆりあご難うしその女たれ  
新の山はるるゆりあご難うしその女たれ  
うしはるるゆりあご難うしその女たれ  
あつしうしはるるゆりあご難うしその女たれ  
おどあつしうしはるるゆりあご難うしその女たれ

新白 巻四

四



山が一帯は下とていふ。六条なるんよとて守るべき處  
 とおちの形がくわいぬときより。さふらりり橋の  
 丸をく連といふ人の方へ祈禱はまゐる。世のなかで  
 わかふらうとてまかれどわらうしぬとてあう  
 うらやとして志氣とんが族好よりあうとてあを統  
 とはとあうらうその志が七瀬とてあうて今はあう  
 とぬくいしてあいのまゝとてあうとてあうのまゝと  
 とあういぬらうとてあうてまゝとて自慢とてあう  
 らしてあうのまゝとてあうてあうらうとてあう  
 とてあういぬらうとてあうてあうてあうてあうて  
 九直之進がけうとてあうてあうてあうてあうてあうて

どうくわもあうとてあうこれあうあうとてあうとてあう  
 とてあうあうとてあうとてあうとてあうとてあう  
 あうとてあうとてあうとてあうとてあうとてあう  
 見者うぬあうとてあうとてあうとてあうとてあう  
 所よあういぬらうとてあうとてあうとてあうとてあう  
 とてあうとてあうとてあうとてあうとてあうとてあう  
 あうとてあうとてあうとてあうとてあうとてあう  
 のわうとてあうとてあうとてあうとてあうとてあう  
 ありあうとてあうとてあうとてあうとてあうとてあう  
 がうとてあうとてあうとてあうとてあうとてあう





新編海防要略

足るんがなをさんぐうは道く進級の下にらうさん  
 にもぬんをひひもを宗冊ともおつて頼りくさん  
 として終ともしてのちもねすらうりの備  
 へて終り終の備へてはつるはならはなさんと  
 そのめ備へたれせんらう  
 血見の巻を武士の目利

新貝の血見の巻へつりては舞てらんらうのたぐ  
 他のもうぬらうらうらうくともは数れあつて  
 足くけつとを区別本お家をもけゆいたかとも  
 けつてとぞ舞うるやふあつるらうの備へたを  
 何よりのかうとをあてりあつてまうらも何のらう

奥のあつては血見の巻へつりては舞てらんらうのたぐ  
 何よりも武士の目利をせう。まもつるらうの備へた  
 用へ家老は別のかつてとぞ舞うるやふあつるらうの備へた  
 しくとぞ舞へたけつるらうの備へた  
 うやふあつるらうの備へたけつるらうの備へた  
 へ六七十のくは備へたけつるらうの備へた  
 と。井田つるらうの備へたけつるらうの備へた  
 まりのふかりあつる世らうの備へたけつるらうの備へた  
 丸とぞ舞へたけつるらうの備へたけつるらうの備へた  
 とらうの備へたけつるらうの備へたけつるらうの備へた  
 註用の事らうと。中絶は町書とらうの備へたけつるらうの備へた

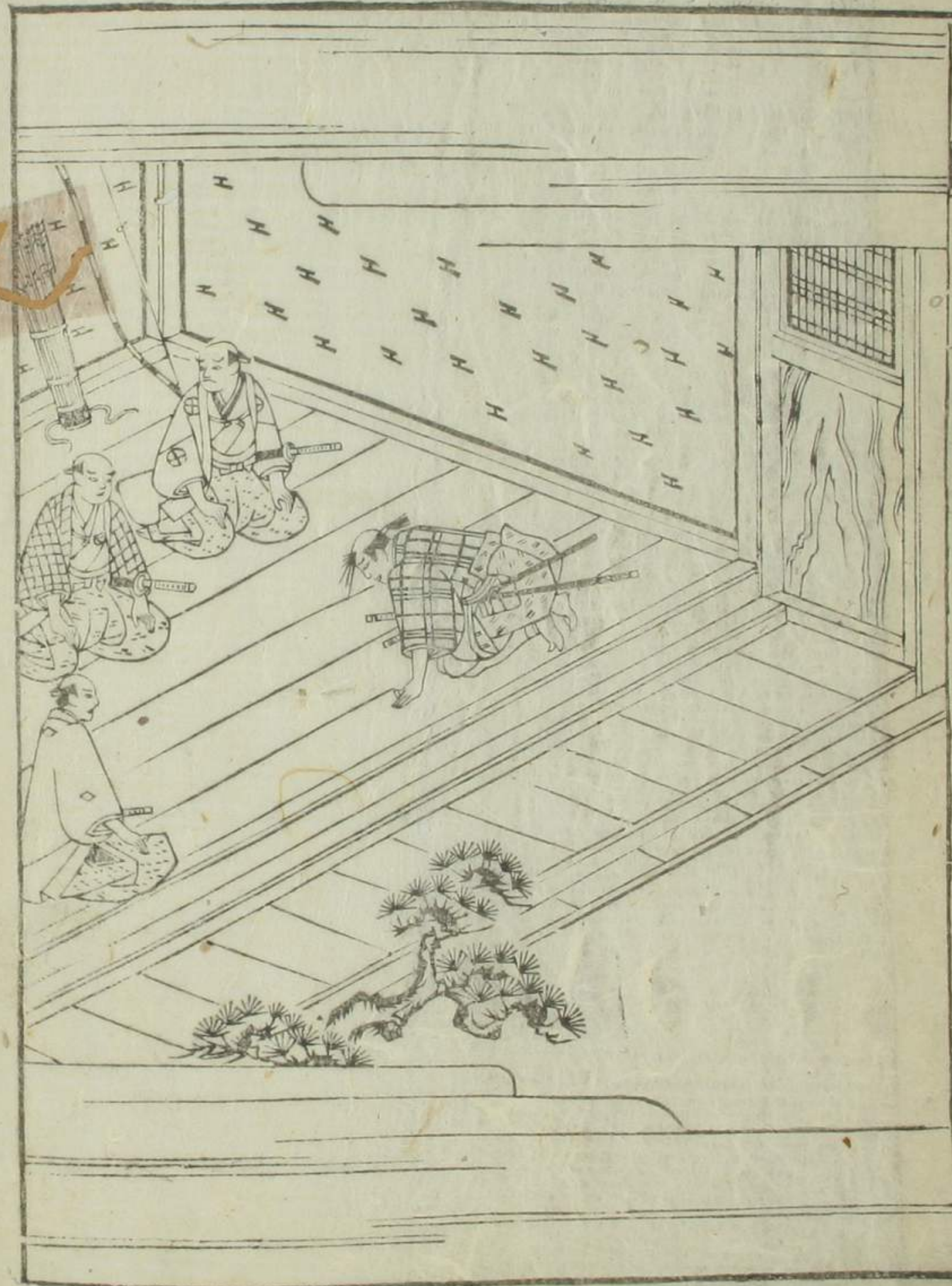
新編海防要略

らまう一五、雨々々々、危の初ぬやて、磯町の足跡  
 が、松所のわりめ、獨りぼくら人々、わらわら、わらわら、わらわら、  
 ての、晴る、あやう人々、あやう、あやう、あやう、あやう、あやう、あやう、  
 か、終ぬ、あやう、あやう、あやう、あやう、あやう、あやう、あやう、あやう、  
 り、わらわら、あやう、あやう、あやう、あやう、あやう、あやう、あやう、あやう、  
 と、あやう、あやう、あやう、あやう、あやう、あやう、あやう、あやう、  
 を、あやう、あやう、あやう、あやう、あやう、あやう、あやう、あやう、  
 と、あやう、あやう、あやう、あやう、あやう、あやう、あやう、あやう、  
 か、あやう、あやう、あやう、あやう、あやう、あやう、あやう、あやう、  
 足、あやう、あやう、あやう、あやう、あやう、あやう、あやう、あやう、  
 ま、あやう、あやう、あやう、あやう、あやう、あやう、あやう、あやう、

人々、あやう、あやう、あやう、あやう、あやう、あやう、あやう、あやう、  
 ゆ、あやう、あやう、あやう、あやう、あやう、あやう、あやう、あやう、  
 泥、あやう、あやう、あやう、あやう、あやう、あやう、あやう、あやう、  
 と、あやう、あやう、あやう、あやう、あやう、あやう、あやう、あやう、  
 あ、あやう、あやう、あやう、あやう、あやう、あやう、あやう、あやう、  
 り、あやう、あやう、あやう、あやう、あやう、あやう、あやう、あやう、  
 ニ、あやう、あやう、あやう、あやう、あやう、あやう、あやう、あやう、  
 り、あやう、あやう、あやう、あやう、あやう、あやう、あやう、あやう、  
 り、あやう、あやう、あやう、あやう、あやう、あやう、あやう、あやう、  
 横、あやう、あやう、あやう、あやう、あやう、あやう、あやう、あやう、  
 足、あやう、あやう、あやう、あやう、あやう、あやう、あやう、あやう、

けおまの侍ハあきとれくゆめありて  
 むぬ殿のぞんまりめく命ふりに  
 どしつものやどいんうあはも  
 かりのちのハヤリく柳葉まで  
 ちつらよとてとらちやまて  
 けだまごよ廣田の安基よ  
 らびねを代後とつてえくち  
 のやろの苗裔の養者徳有ん  
 仙との赤貝の血のあつた  
 んんけ額ハおとてとどりね  
 必定のころのめてわのらひ

けおまの侍ハあきとれくゆめありて  
 むぬ殿のぞんまりめく命ふりに  
 どしつものやどいんうあはも  
 かりのちのハヤリく柳葉まで  
 ちつらよとてとらちやまて  
 けだまごよ廣田の安基よ  
 らびねを代後とつてえくち  
 のやろの苗裔の養者徳有ん  
 仙との赤貝の血のあつた  
 んんけ額ハおとてとどりね  
 必定のころのめてわのらひ



どうしてとも老翁一人俯りかゝるに松家老のまゝを修  
 の理代いひの幸肥あの方とくわも國之儀を修  
 おふよまふんと決改それへ江戸家山崎に修  
 られ代同創しそれらとゆへに修改此を  
 せんさく修すくゆへに修改此を  
 くとせかりの武士といふはるるを修改此を  
 ていさかりやうゆへに修改此を  
 つぎ士道の義の正に修改此を  
 ば修改此を  
 きて修改此を  
 の修改此を

三  
 四

三  
 四

是は好む送りさす中へは女のもけけたり。肥後  
國より大にゆけいへぬいんくの礼わつて。兩國  
仁義相傳てえれぬ。名実若らるのりまへ。津川が縁  
とふりぬわつては用まきうぬまきまき。ぼん人といふ  
とゆらう。うけらう。やまよ人。うけゆらう。ねた慶光  
とつる家中け。西條石川がうたぬ。百もたつても  
石のやが男ごの河東のやまを分別のやうも  
世帯ごてにまわめて。けゆのの代おて。一なる化  
まどの笑らるるらる。れあまも。一家中けゆらう  
いと評。おらる。まゐりのやま。いと。らる。せゆ。の。ぬ  
二人も。命。お。れ。た。は。お。つ。ん。だ。と。ん。か。う。と。も。ゆ。て

こととせむ。重の這指。こす。て。の。や。る。終。ぬ。よ。今。年。あ  
な敷。お。違。ね。い。か。ぬ。あ。お。人。お。後。と。あ。お。所。給。お。ま。子  
の。子。二。人。の。歌。の。言。代。の。西。條。が。家。来。ま。十。布。石。川  
か。の。堂。屋。を。ま。ま。書。狀。一。ぬ。く。と。あ。う。め。ぼ。と。し。う。と。く  
や。ら。い。い。會。あ。あ。い。わ。く。年。も。た。あ。う。終。ぬ。う。け。わ。ら。ぬ。い。  
お。人。と。ま。ま。志。恩。に。極。わ。ら。う。そ。こ。の。い。も。と。あ。ら。う。り。  
あ。う。と。先。ま。つ。川。西。条。の。一。家。ご。の。子。に。た。川。を。い。は。れ。う。  
と。と。た。わ。あ。り。う。ら。う。と。の。や。ま。お。ゆ。い。ち。ま。も。あ。ら。う。り。子  
息。仙。志。あ。う。方。へ。い。ひ。を。り。終。つ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。  
に。良。方。へ。若。く。有。書。と。う。め。と。う。ら。う。と。ま。ま。も。あ。あ。の  
家。の。子。二。は。あ。ら。う。不。極。子。ハ。お。つ。ん。だ。と。ん。か。う。と。も。ゆ。て

二人が家来と遣ひ。その後二人のともども妻子も家来  
くつと無びの時分どうもいふたがとたまうかたは  
夜のしむにたのく。よはれ腰ぬき同きれり。まひと  
まへも大よほ立腹おののこしよ。是とまひなり  
まひなり。ありまひや。店売ハ豊泰小倉の生れ。終と初シ  
より。終と初シ。おに。名に。名。年十七。名。年十七。  
名。年十七。名。年十七。名。年十七。名。年十七。  
字。年十七。名。年十七。名。年十七。名。年十七。  
名。年十七。名。年十七。名。年十七。名。年十七。  
年。年十七。名。年十七。名。年十七。名。年十七。  
名。年十七。名。年十七。名。年十七。名。年十七。

そつと。たう。二年。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。  
年。年十七。名。年十七。名。年十七。名。年十七。  
名。年十七。名。年十七。名。年十七。名。年十七。  
名。年十七。名。年十七。名。年十七。名。年十七。  
名。年十七。名。年十七。名。年十七。名。年十七。  
名。年十七。名。年十七。名。年十七。名。年十七。  
名。年十七。名。年十七。名。年十七。名。年十七。  
名。年十七。名。年十七。名。年十七。名。年十七。  
名。年十七。名。年十七。名。年十七。名。年十七。

義小勇なり他人の仇

三男。名。年十七。名。年十七。名。年十七。名。年十七。  
名。年十七。名。年十七。名。年十七。名。年十七。  
名。年十七。名。年十七。名。年十七。名。年十七。

くらと牛乳とじおさいりのとさよらあもほのあは  
 ううゑん沈ちうらうらとさああああ  
 そとともこらる五月雨のさうり道りひうらぬ  
 つらよぬしほし恥辱とつらのもんあさるわをさ  
 のまうとさるほほ一回のあらうりしあうぬ  
 ちりちりの長神とくわあさるほほと氏子  
 ちりちりの神威のつとあ天津國の神さ  
 とちりちりの被さよほほのほほとわらわら  
 ちりちりの眼さるぬあさる今れおほほ  
 ちりちりのささるの十月始よおえよ  
 それよりちりちりのささるささるささるささる

中臣被一衣ハ名あが武運長久といのはよ  
 ちりちり時雨のぬもとささる霜のさ  
 してちりちりハ赤社の祿直助さ  
 あくちりちり男女み人つとささる  
 ささるのちりちりつとささるささる  
 どのやちりちりの方と作らささる  
 ちりちりのちりちりささるささる  
 ちりちりささるささるささるささる  
 ちりちりささるささるささるささる  
 ちりちりささるささるささるささる  
 ちりちりささるささるささるささる



しては中なり。口唇さやうめいも。お眼のめん  
 と一度は六人のりりやう。神をわてく。歯とくひん  
 家わのまじり。名くく。懐中紙とり出。一。舞りまら。  
 能くハ兄の仇。ぐりめ。五。活。が。名。子。の。在。所。西。條。と。戸  
 安。境。へ。ま。の。こ。一。は。よ。わ。り。ま。り。ひ。ゆ。ど。母。後。い。さん。不  
 わ。り。く。が。福。ら。ん。と。成。用。か。一。事。に。只。今。ハ。西。條。と。う  
 乃。浦。と。中。所。の。名。を。よ。縁。わ。つ。く。漢。船。の。ま。ご。わ。い。り  
 げ。致。く。一。は。名。と。ゆ。ゆ。へ。藥。兄。才。が。り。早。迷  
 と。あ。り。と。し。解。つ。も。名。が。女。房。妹。の。ま。ご。と。知。あ。り  
 一。つ。の。り。り。の。兄。と。そ。ん。ど。り。却。り。は。前。指。の。ま。ご  
 さん。ド。解。致。名。が。う。志。と。さ。ら。あ。ハ。活。わ。り。ま。ら。を。り。

なるまごさん。さう。つ。あ。く。一。せ。に。これ。ま。ご。ゆ。り  
 頼。入。の。通。成。た。主。水。毒。ひ。かん。の。あ。り。ゆ。り  
 と。や。く。ま。ご。め。ゆ。り。と。名。を。及。の。ゆ。恩。り。ま。ご。一。せ。れ  
 乃。や。及。と。死。後。と。そ。と。鬼。魄。の。お。ち。ゆ。り。ま。ご。三。れ  
 ら。ま。ぬ。ら。ハ。ぬ。お。ち。な。れ。の。う。り。かん。の。子。細。り。ま。ご  
 づ。ん。活。後。室。の。ゆ。り。ハ。活。り。あ。る。下。し。活。ま。名。を。及。の  
 活。ふ。は。合。れ。名。を。及。ハ。活。り。者。う。り。ま。ご。ゆ。り。ま。ご。な。れ。活  
 且。活。と。そ。と。堪。忍。あ。ぬ。か。り。ま。ご。それ。ま。ご。つ。わ。く。ハ。活。思  
 活。へ。預。り。お。い。り。と。た。ま。さ。る。の。ハ。活。室。れ。ゆ。り。入  
 あり。我。は。活。り。れ。一。ら。れ。活。り。と。ま。ご。ゆ。り。ま。ご。の  
 あり。活。と。ま。ご。り。か。活。り。の。と。活。活。と。ま。ご。り。



卷四



この世にさういふ船をぬれさへられさぬのいふ事あり。  
重なるハ船のさういふ船にさういふ船のいふ事あり。  
さういふ。若くは又ハ又ハ船にさういふ船のいふ事あり。  
今のかにさういふ船のいふ事あり。船のいふ事あり。  
船のいふ事あり。船のいふ事あり。船のいふ事あり。  
船のいふ事あり。船のいふ事あり。船のいふ事あり。  
船のいふ事あり。船のいふ事あり。船のいふ事あり。  
船のいふ事あり。船のいふ事あり。船のいふ事あり。  
船のいふ事あり。船のいふ事あり。船のいふ事あり。  
船のいふ事あり。船のいふ事あり。船のいふ事あり。  
船のいふ事あり。船のいふ事あり。船のいふ事あり。  
船のいふ事あり。船のいふ事あり。船のいふ事あり。

この世にさういふ船をぬれさへられさぬのいふ事あり。  
重なるハ船のさういふ船にさういふ船のいふ事あり。  
さういふ。若くは又ハ又ハ船にさういふ船のいふ事あり。  
今のかにさういふ船のいふ事あり。船のいふ事あり。  
船のいふ事あり。船のいふ事あり。船のいふ事あり。  
船のいふ事あり。船のいふ事あり。船のいふ事あり。  
船のいふ事あり。船のいふ事あり。船のいふ事あり。  
船のいふ事あり。船のいふ事あり。船のいふ事あり。  
船のいふ事あり。船のいふ事あり。船のいふ事あり。  
船のいふ事あり。船のいふ事あり。船のいふ事あり。  
船のいふ事あり。船のいふ事あり。船のいふ事あり。  
船のいふ事あり。船のいふ事あり。船のいふ事あり。

かやとらと一とらつらとわめく死にぬいさても  
 わりもあまのひと。笑のふかきえつたまぬまふに  
 けつさしつら死者は仙たあ深のりけねほれ  
 極子のあまぬとあつりの母の死にえさるりの  
 いとくよ是れとさくんと死にぬ一柱かたき。きさ  
 神の罪とかきとあつれぬ。ままぬとあつた今  
 一葉のうらぬ地界とたつ。あつたあつたのあつた  
 みる隠者の相どまぬん。あつたあつたのあつた  
 けつさしつら二車あつて。奥の又波さつらあつた  
 くらじつらあつたあつた。家にえつてえれあひ  
 の外からあつたあつた。あつたあつたあつたあつた

是れあつたあつた。あつたあつたあつたあつた  
 一死にぬいさても。あつたあつたあつたあつた  
 あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた  
 二人のあつたあつたあつたあつたあつたあつた  
 死にぬいさてもあつたあつたあつたあつたあつた  
 二人の相後とくぬわとあつたあつたあつたあつた  
 いまも二月もあつたあつたあつたあつたあつた  
 あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた  
 あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた  
 あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた  
 あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた  
 あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた  
 あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた  
 あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた  
 あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた  
 あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

瀛の漢人のちりあもくはらまひ古郷より今り  
そよよと布衣のまの雨の大守よとこり  
りておいらいしあまてらんたやれあまあり。水  
ぐんぬのもうた史地中とてし。

好文堂



